

DOWAS NEWS

2022

Vol.25 No.2



海洋深層水利用学会 2022 年度 学会賞の決定について

学会賞授賞審査委員長 池上 康之…1

第 26 回海洋深層水利用学会全国大会開催報告

研究発表企画委員会委員長 清水 勝公 …2



海洋深層水利用学会

海洋深層水利用学会 2022 年度 学会賞の決定について

2022/10/26

海洋深層水利用学会 学会賞授賞審査委員長
池上 康之

海洋深層水利用学会 2022 年度学会賞は下記の通り決定しました。

鈴木達雄(株)人工海底山脈研究所 代表取締役

「人工構造物を利用した亜表層水(深層水を含む)による海域肥沃化とその事業性の実証」

受賞式は、2022/10/26 開催の海洋深層水 2022 全国大会 (Web 開催) にて執り行われました。

写真 1、2 は受賞式の様子です。



写真 1 (池上委員長の挨拶)



写真 2 (鈴木達雄氏の挨拶)

【選考理由】

鈴木達雄氏は、天然の海山が亜表層水(海洋深層水を含む)の栄養塩類を生産層に供給し周辺の生物生産性を高めていることに着目し、人工の海山によって海洋生物資源量を増やすことに関して周知な理論検討と実験室実験を重ね、多くの実績を得ている。特に、その成果は社会実装として、水産庁の補助事業としての長崎県松浦沖の海底構造物(マウンド)の建設、長崎県の公共事業として人工マウンドの建設をはじめ、鹿児島県、宮崎県、静岡県などでもこれまでに 11 基の人工マウンドを建設または建設中のものに活かされている。さらに 2010 年からは、国の直轄事業が加わり、これまでに 5 基の人工マウンドが建設あるいは現在も建設されている。海洋深層水による海域の肥沃化は、深層水資源利用の大きな目標の一つであり、鈴木氏の業績は海洋深層水の利活用を考える際に極めて有益であり、多くの他学会でも評価されている。これまで成果は、審査付き論文 21 編、総説など 73 編で公開している。2002 年 5 月には、(社)土木学会より「海域での食糧生産を目指した人工海底山脈の施工」として環境賞を受賞している。海洋深層水を含む亜表層水による人為的の海域肥沃化は、世界的に関係者の関心を持たれてきているが、実際の事業にまで進んでいるのは、鈴木氏が提案して実施されている人工海底マウンドにつける。まさに、鈴木氏は、海洋深層水の富栄養性の利活用のパイオニアである。

以上のように、鈴木氏のこれまでの活躍と業績は、本学会賞に十二分に値するものと評価した。

第 26 回海洋深層水利用学会全国大会開催報告

海洋深層水利用学会全国大会研究発表企画委員長
清水 勝公

2022 年度第 26 回海洋深層水利用学会全国大会が 10 月 26 日(水)に開催されましたことを報告します。

本年度の大会も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大を防止する目的から、Web 会議システムを利用しての開催となり、3ヶ年続けての皆様方と対面できない大会となりました。

研究発表者数に関しましては一般研究発表が 15 題、利用促進委員会より“海洋深層水の利活用商品の現状 2022”と題してのポスター発表 1 題、加えて学習推進委員会よりの特別発表としまして“委員会活動紹介”の計 17 題の投稿発表がされました。また、海外からの投稿発表につきましては韓国から 1 題のご発表がありました。

参加申込者状況に関しましては会員:61 名、非会員:8 名、全 69 名からの申込がありました。一方、当日の参加者数に関しましては会員:55 名、非会員:4 名、内海外:3 名(韓国:2 名+台湾:1 名)でした。

一般研究発表の内容に関しましては“エネルギー関連、水産養殖関連、環境関連、資源保持関連、微生物関連、食品利用関連”等のテーマに加え、取水施設の維持・保持に関する発表も 1 題がありました。

研究発表の持ち時間については質疑のための時間も含め「15 分/題」で行い、全体的にはスムーズに行われたものと思われました。

また、使用した Web システムについては弊会事務局(佐賀大学)のシステムを流用し、操作も含めてご協力いただき、感謝の一語に尽きる次第です。本紙面をお借りしましてお礼させていただきます。